

〔伊呂波字類抄人倫〕赤子アカコ

〔書言字考節用集人倫〕赤子チシゴ順和 乳兒ニ 赤子アカコ

〔續世繼志賀のみそき〕三のみ仁君はわかみやと申ておはしまし、略十六にて御ぐしおろ

させ給て、うせさせ給にき、略中この宮あかごにおはしましけるときたえいり給へりければ、行

尊僧正のりたてまつられけるに、白川院くらゐもつき給べくば、いきかへりたまへとおほせ

られけるほどに、なほらせ給ければ、たのもしく人もおもひあへりけるに、そのかひなくおはし

ましける、

〔令義解凡男女三歳以下爲黄〕

○按ズルニ、黄ノ事、政事部戶籍篇ニ在リ、參看スベシ、

〔類聚名義抄凡兒〕兒上俗、下正、コ、チ、ゴ、

〔運歩色葉集小兒〕若子同

〔書言字考節用集人倫〕兒子也、兒童同 恍惚ヲ子ト

〔日本釋名人倫〕兒 乳のみ子なり、順和名抄に曰、乳を合の義也、又ちいさき子なるべし、

〔古語拾遺〕是以天照大神育吾勝尊、特甚鍾愛、常懷腋下、稱曰腋子今俗號稚子謂和可古是其轉語也、

〔新撰姓氏錄河内國皇別〕難波忌寸

大彥命之後也、阿倍氏遠祖、大彥命磯城瑞籬宮御宇、天皇崇御世、遣治蝦夷之時、至於兔田墨坂、忽

聞嬰兒啼泣、卽認覓獲棄嬰兒、大彥命見而大歡、卽訪求乳母、得兔田茅原媛、便付嬰兒、曰能養長安、醉

功、於是成人奉送之、大彥命爲子愛育、號曰得彥宿禰者、異說並存、

〔日本書紀五〕六十年七月、出雲臣等畏是事、不祭大神大國而有間、時丹波水上人名水香戶邊啓

于皇太子活目尊垂曰、己子有小兒、而自然言之、玉菱タマシ石、出雲人祭真種之甘美鏡、押羽振甘美御